

令和5年度 第2回
寒河江市総合教育会議
会 議 録

令和6年2月21日 開会

令和6年2月21日(水) 令和5年度 第2回寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

寒河江市長	佐藤洋樹		
寒河江市教育長	佐藤志津男		
寒河江市教育委員	鈴木淳一	大沼尚史	
	鈴木多鶴子	大沼賀世	

○ 事務局職員の職氏名

総務課長	鈴木隆	学校教育課長	今野育男
指導推進室長	石山勝巳	生涯学習課長	渡邊健一
スポーツ振興課長	渡辺智昭	総務課課長補佐	小関光彦
学校教育課長補佐	秋場昭吾	生涯学習課長補佐	今井英智
スポーツ振興課長補佐	兼子亘	生涯学習課主査	齋藤晴光

○ 日程

令和5年度 第2回総合教育会議日程
令和6年2月21日(水)

午後3時00分 開議
市立図書館 視聴覚室

1 開会

2 あいさつ

3 協議

4 その他

5 閉会

1 開 会 午後3時00分

2 あいさつ (佐藤洋樹市長)

皆さんご苦労様でございます。今日は令和5年度第2回の総合教育会議ということで、新たに大沼尚史教育委員を迎えまして、開催するところです。前は11月8日に開催し、学校施設整備計画の改定についてとさがえ未来コンソーシアムについて、皆さんからご意見を頂戴いたしました。

ご案内のことと思いますけれども、昨日令和6年度の寒河江市の予算について、市議会の方に説明をさせていただいて、午後からマスコミの方に情報を提供したところでもあります。寒河江市の振興計画は、来年度で5年間のうちの4年目にあたりますので、しっかりと計画の成果を出していかなければならない年になると思いますし、昭和29年8月1日に寒河江市が誕生してからちょうど70周年という大きな節目を迎えるわけでもあります。70周年記念の事業も予定しておりますけれども、いろいろと考えたときに70周年というのは一つの通過点に過ぎず、寒河江市が今後10年20年30年経ち、100周年を迎えていくためには、引き続きしっかりとした発展の基盤を作っていく節目の年にしたいということで、予算編成等考えております。

一つはやはり子育て支援、教育の充実ということで、将来を担う人材として子どもたちを育成すること、それから災害が多発し、医療や福祉の問題が多々あるわけですので、そういった安全安心なまちをどう作っていくかということ、それから将来を見据えてデジタル化という新しい時代にきっちり対応していくこと、そして10年先20年先30年先を見据えたインフラの整備等もしていかなければならないと。

そういった中で、学校の新たな施設整備については、きちんと進めていかなければなりませんし、今年の4月には子どもたちの新たな施設等もできますので、子どもあるいは教育の振興と共にまちづくりを行い、空いた土地をどう活用していくか、既存の公共施設をどう活用していくか、それから病院の問題やネットワークの整備もあるわけですので、それらを踏まえ長期的な展望に立ちながら、まちづくりを進めていく年にしていければと思います。予算編成をしたところです。「1丁目1番地の子育て支援・教育の充実」は、予算編成の中でも極めて重要な項目でありますので、ぜひ各委員の皆様には、それぞれの視点から忌憚のないご意見を頂戴しながら、寒河江の未来を担う子ども達のためにご尽力いただければと思います。よろしくお願いいたします。

3 協 議 (座長：佐藤洋樹市長)

(1) 魅力ある市立図書館になるために — アンケート結果をもとに —

○佐藤洋樹市長：

それでは次第に従いまして、(1) 魅力ある市立図書館になるために— アンケート結果をもとに —について協議をいたします。まず、資料の説明ということで、渡邊健一生涯学習課長お願いします。

○渡邊健一生涯学習課長：

資料4ページの概要欄をご覧ください。まず、アンケート調査についてですけれども、令和4年度において、市立図書館の課題を提示していくために4種類のアンケート調査を実施したところです。図書館来館者へのアンケート、やまがたe申請を活用した市民向けアンケート、それからやまがたe申請とさくら連絡網を活用した市内小中学校在籍児童生徒の保護者向けアンケート、同様に市内中高生向けのアンケートを実施いたしまして、1,116名の方々からご意見を頂戴しました。その結果、中高生の回答割合が高く、全体の60パーセント以上が10代の回答者でした。「まだ市立図書館を利用していない」と回答した方が179名おりました、未利用者把握の貴重な意見もいただくことができました。居心地や快適さについては、80パーセント以上の方が満足しており、不満と回答した方が3パーセントでした。開館時間については、70パーセント以上の方が満足しており、不満と回答した方が8パーセントでした。調べるものや学習目的での使いやすさは、同じく70パーセント以上の方が満足しており、不満と回答した方が7パーセントでした。

このような結果になりまして、概ね高い評価を得たのではないかと思います。一方で、就学前のお子さんを連れて行きやすいかという問いについては、行きやすいと回答した方が61パーセント、行きにくいと回答した方が19パーセントとなっております。具体的には、「話し声を注意された」「迷惑をかけそう」というご意見がありました。設備に関しては、トイレ等に関するご意見を多くいただいております。また、図書館への要望という項目がありますが、その中では「図書資料の充実」「視聴覚資料の充実」が多く寄せられ、他には学習スペースや飲食スペースへの要望、駐車場への要望、テラス席等の設置要望がありました。

また、市立図書館を利用したことがない方からの意見として、「貸し借りの手続きが面倒だ」「利用の仕方がわからない」「読みたい本がない」が多く寄せられ、「就学前の子どもを連れて行きにくい」という意見もありました。

そこで、1,116名の方々からのアンケート調査結果をもとに、魅力ある図書館になるために今後検討していくべき課題を五つ掲げたところです。

一つ目が、図書資料と視聴覚資料の充実です。先程も申し上げましたが、こちらはアンケート調査の回答で最も多く寄せられたものです。平成3年の開館当初は、蔵書数6万2687冊でしたが、昨年末では14万6652冊と2.3倍以上に増えております。今後は冊数よりも資料内容の充実に向けていく必要があるのではないかと考えております。

二つ目が、利用方法の周知です。前述のとおり、図書館未利用者からのアンケート結果では、「利用の仕方がわからない」「読みたい本がない」といったご意見がありました。そのため、利用方法や、本・雑誌・DVD等の視聴覚資料を含めた図書資料の内容も周知していく必要があると考えております。また、子育て世代にとって魅力ある図書館にならなければ、お子さんがなかなか来ることができなかつたり、お子さんを連れて来てもらえないこともありますので、子育て世代への周知を徹底していくことが重要な課題ではないかということも、考えております。

三つ目が、館内巡視・巡回の充実です。子ども連れの方が少しでも来やすくなるよう、スタッフによる館内巡視・巡回を充実し、スタッフからの優しい声がけを進めていく必要があります。

四つ目が、設備の整備です。アンケートでは、トイレ・飲食スペース・学習スペース等に対するご意見が多数寄せられております。また、静かに読書できる「静読室」の設置も検討課題であ

ります。図書館は静かであるべき、ということではなく、子ども達が集うにぎやかな場所にできないか、そしてその中に静かに読書ができる「静読室」や中高生向けの学習スペースといったスペースを配置する必要があるのではないかと。令和3年度に実施した劣化度調査の結果もふまえながら、公共施設の個別施設計画とも調整しつつ、以上のようなスペースを今後検討していきたいと思っております。また、ご意見が多い駐車場の問題についても、解決に向けて検討してまいります。

五つ目が、指定管理者との連携です。市立図書館は、来年度4月から指定管理者制度に移行しまして、株式会社図書館流通センターが指定管理者となります。とはいえ、現在実施している各種事業、例えば「図書館まつり」や読書講演会、ボランティアの皆さんによるおはなし会等は、基本的に全て継続してまいります。その他に、指定管理者からの提案事業としましては、現代俳句協会と連携した、図書館内での俳句ポストの設置、それから作品の発表会、プログラミングのワークショップやボードゲーム体験会の実施、軽自動車移動図書館LiBOONの導入等が予定されております。特に、LiBOONにつきましては、慈恩寺テラスや最上川総合公園、4月に開館を予定している屋内型児童遊戯施設CLAAPINSAGAEやイベント等での出張貸出、読み聞かせ等を行う計画を立てております。こちらの車両は4月末に納車予定で、5月上旬から活動が期待されているところです。また、これら以外にも民間企業のノウハウを活かした事業展開や、ニーズに合った図書資料や視聴覚資料の充実、郷土資料の収集等にも力を入れていくということで、ご提案いただいております。より魅力的な図書館にしていくためには、指定管理者との連携が必要不可欠であります。各種事業の実施はもちろんのこと、図書資料の充実に関しても十分に意思疎通を図りながら、進めてまいりたいと思います。施設の整備につきましても、全国で数多くの指定管理者制度の実績がある指定管理者のご意見も参考にしながら、考えていきたいと思っております。

以上の五つを課題として考えております。そこで、議題のとおり、魅力ある市立図書館になるためにということで、委員の皆さんからご意見をいただければと思います。特に、今まで図書館を利用して感じられたことや未利用の理由、幅広い世代の方に利用してもらう方法等について、意見交換をしていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

○佐藤洋樹市長：

はい。それでは、鈴木淳一委員の方からご意見をいただければと思います。

○鈴木淳一委員：

いろいろと企画されているんだなと思います。私は、このようなアンケート調査があったことを今初めて知りました。資料を拝見しまして、どのような意見や要望があるのかも知る事ができました。

まず、アンケート回答者の60パーセント以上が10代の方、寒河江のこれからを担う中高生概ね600人以上の方に参加してもらったということで、大変ありがたいなと思ったところです。また、80パーセント以上の方が満足しているという回答しているということで、こちらも優秀だなと感じております。ですが、その利用回数が年に1、2回程度ということで、「利用方法がわからない」と回答しているということ想像すると、おそらく個人のカードではなく、親のカードで

親と一緒に来て利用しているのではないかなと。

残念ながら、まだ利用したことがないと回答している方もおり、その中でも「読みたい本がない」という回答が目に入ります。読みたい本がないということは、そもそもどういうことなのだろうと。図書館に来て、読みたかった本が実際借りられていて、その場がないということなのか、それとも本を読まない、読むことをしないということなのか、どちらのニュアンスなのかなと感じたところでした。

また、「貸し借りの手続きが面倒だ」という回答については、おそらく、今のご時世スマートフォンで気軽に漫画や本を読むことができるため、それと比べて手間だと感じるのではないかと。本はデジタルだという認識を持っているのかもしれないです。

施設に関する要望、具体的にはトイレや駐車場に関する要望も見られましたが、図書館に限らず本屋さん等でインクのおいによりトイレが近くなるという症状があるそうで、トイレに関してとても重要なものだと感じたところでした。図書館が30年前の建物ということもお聞きしましたので、時代に合ったトイレの設置も考えてもらいたいと思います。駐車場に関しては、市役所も近く問題はそこまでないように思われますが、建物と駐車場が敷地一体となっていることもあり、「できるだけ近くに車を駐めたい」という利用者の心理がはたらき、駐車場への不満につながっているのかなと。ですので、難しい課題だと感じました。

先程も申し上げたとおり、今ある図書館は30年前にできたということで、私自身もオープンの際に実際見させてもらいました。今は、まなびあテラス等他の新しい図書館がありますが、当時は他の地域にはない立派な図書館ということで、公園もあり外にベンチもあり幼児スペースや学習スペースがあり、座席が自由に配置された最新モデルだったと認識しています。しかし、30年経過して、他の市町村もこれを真似てそれ以上のものを作ったと思いますし、比較されて当然だと思います。アンケートの中でカフェに関する回答もありましたが、何年か前にこの施設内でカフェは必要だということで、市立図書館にもカフェを用意するという話を聞いたことがありましたが、実際は自動販売機の設置でした。そういうものではなく、回答者はフードコートや飲食スペースを理想としていました。そこで、図書館をどう広げていくかということになるのですが、先程説明ありましたとおり、チェリーランドに新しくできる屋内型児童遊戯施設との連携ですとか、美術展等と併合ですとか、やはりいろいろなものと組み合わせた複合的な、図書館単独ではないものを目指すと良いのではないかと。東京駅での本屋さんの話ですが、本の売上げが多いそうです。それはなぜかということ、出発までの待ち時間に本を買っていく人が多く、ちょうど良い場所に本が陳列されてあって目がいくそうです。このように、駅の待合室に出張図書館として市立図書館の本を何冊か置いておくのも、方法としてはありかなと思います。しかし、何年か前から若い世代には、読書離れとか活字離れといわれているような現象があり、新しく別の興味を持つものが増えてきました。ですが、若い世代も歳を重ねていけば趣味や関心も変わりますし、自分の知識を増やしたいということで図書館を頼るのではないかと。やはり、年齢だと思えます。若い世代がそもそも本というものを知らないということで、何を讀んだら良いかわからないというところが正直あると思いますので、無理やり与えるのではなく、どこかの県にはあるそうですけれども、AIが自分に合った本を選んでくれるといったサービスも手かなと。それがきっかけで、自分も本を読んでみようという流れになるのではないかと感じました。

最後になりますが、この間現地調査をしてきました。月曜日の朝、昼、午後の3回図書館に足

を運んでみましたが、なかなか賑わいがありました。午前中は子連れの方が主流で、昼は年配の方が多く、午後になると中高生が学習スペースを使っていると。利用者はなかなかいるのだなと感じました。石垣館長ともお話しして少し様子をお聞きしましたが、1日の来館者数は200～300人程いるそうです。私は多いなと驚いたのですが、館長は物足りないので日曜日と同様に平日も500人程にしたいとのことでした。4月から指定管理者になるということもお聞きしましたので、生涯学習課長からの説明にもありましたとおり、利用者増が期待できるような図書館になるのではないかと私は期待しております。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。それでは、大沼賀世委員をお願いします。

○大沼賀世委員：

今回、アンケート調査結果に関する資料を読ませていただいて、若い世代から回答が沢山あり、また、自由記入欄といいますかご要望欄に非常に多くの意見があり、やはり図書館というのは若い世代からみても大切な場所なのだなと感じました。そして、資料を読む中で共感できる内容も多々ありました。私は月に2、3回程度図書館を利用しているのですが、来る度に季節にちなんだ陳列に目がいくので、工夫されているのだなと思います。新書のコーナーも、最近話題の本等も導入されていて、本の選書も良いというアンケートの意見もありましたが、私自身もそう思っております。

先程から子育て世代という話が出ていたのですが、子ども向けのコーナーも季節ごとのコーナーがありまして、そこは非常に目を引くので、やはりそこから本を選ぶ子どもが多いのではと思います。私自身の話になりますが、絵本の場合作者と絵を描く作家が違ったりして、絵本を探す際にどちらの名前で探そうかなと悩むこともあるのですが、定番のシリーズとか人気の作家の絵本というのは一つのコーナーに特集としてまとめていただければ、探しやすいのかなと思います。子連れに厳しいという話もありましたが、私も子どもが小さいときには利用者に「うるさい」と言われたこともありますし、図書館のスタッフの方が来て「少し席を外していただけますか」と言われた経験もありますので、対応の仕方とマニュアルそして臨機応変な対応をしていただけたら良いのかなと思いました。ですので、子どもにとって優しい図書館であれば、親がついて来なければならないことができないので、親もついて来て利用者が増える図書館になると思っております。

また、若者の活字離れという話もあり、インターネットで漫画や本を読むことができますけれども、私もタブレット端末や携帯電話で字を見ると目がつらくなったりするときもあるので、やはり実際開いて読む本の良さというものもあると感じております。活字離れに関連して、若い世代にとって読みたい本がないという回答もありましたけれども、漫画や雑誌を充実させていただいたら読みに来る方もいるのかなと思います。県内の他の図書館では、漫画を置いているところもありますし、漫画から言葉を学ぶこともできると思いますので、蔑視をせずに取り入れて欲しいと思います。

カフェについて私が印象に残っているのは山形県立図書館ですけれども、館内に飲食スペースがありまして、本を持ち込むことはできなかったと記憶しているのですが、コーヒーは持って出

ることができます。椅子とテーブルがありますので、庭を見ながら本を読んでいる方を見かけたこともあり、こういった図書館も良いなと感じたところです。市立図書館の現状の建物と施設を使うのであれば叶わないのかもしれませんが、この先例えば10年経てば流行も変わるかもしれませんが建替えのときがあったときには、前述のような飲食スペースとかゆったりくつろぎながら本が読める場所、個室のような場所もできたら良いのかなと思います。カフェコーナーも自動販売機の設置のみということで、先程も覗いてきたのですが、アンケートの意見にもあるように立ち飲みスペースといった感じで椅子がありません。軽食持ち込み可能ですので、自動販売機があるスペースにちょっとした椅子やテーブルがあれば、子ども連れの方が無料で長時間過ごせることができる場所が増えるのではないかと思います。

あとですね、館内のパソコンで本を検索することもあるのですが、1台しかないため非常に不便かなと。パソコン自体は2台ありますけれども、もう1台の方は市のホームページに繋がるものでして、蔵書検索はできません。インターネットを使って個人のスマートフォンやパソコンから市のホームページを通してでも良いので、蔵書や貸し借りの状況が検索できるようになると便利かなと。

また、「SNSで情報発信して欲しい」というアンケートの意見もありましたが、若い世代はSNSを見て実際に足を運ぶ方も多いと思います。私の方で調べてみたところ、上山市や長井市、新庄市や西川町等はフェイスブックページを図書館で持っていました。インスタグラムは県内の図書館では持っていないようでしたが、インスタグラムで情報発信している図書館は全国で数多くありましたし、X（旧ツイッター）で発信している図書館もありました。いち早く情報を利用者に伝えることができるこういったSNSの良さも利用して、ありとあらゆる手段で情報を発信することも検討していただけたらと。

あとですね、「カゴがない」という意見があって対処されたのかなと思うのですが、カートが新しく置かれておりました。裏口から入る方には目につくのでわかるのですが、私のように表口から入った方にはカートの置き場がわからないかと。実際、私も置き場がなかなかわかりませんでしたので、両方に置いた方が良いかと。重い本を運ぶのは大変ですので、非常に良いサービスだと思います。

私自身、トイレについては非常に暗いので何とかして欲しいなというイメージがありました。小学生の子どもが「怖い」と言って一緒に行かないとトイレに行けないといったこともあったので、狭くて使いづらいトイレという印象があります。

駐車場に関しても意見がありましたけれども、限られた敷地の中で駐車場を増やすということは大変だと思うので、せめて第1駐車場・第2駐車場ともに舗装等していただけたらと。車を駐める際にガタガタしたり水が溜まったりします。

郷土資料の収集や保管等も、指定管理者の取り組みとして挙がっておりましたが、アーカイブ化についてはどの程度されるのか気になります。あと書庫が3階にあるはずですが、機会があれば拝見したいなと思っております。入口の展示コーナーも展示替えを頻繁に行っていて、今回は歴史史料も展示されておりました。ガラスケースがありますので、スタッフがなくても安心して史料を展示することができるスペースだなと感じております。娘が小学校4年生のときに総合学習で二ノ堰について調べたときに、図書館で展示させていただいて、非常に喜んでおりました。このように、小中学生だけでなく高校生の研究や課題の成果を発表できる場になれば、多くの人

に見てもらふ機会は子どもにとっても励みになりますし、親や家族も嬉しいことなのではないかと感じております。

図書館全体への満足度は非常に高いという印象です。蔵書数も増えておりますし、より良い図書館になることを願っています。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。大沼尚史委員の方からもお願いします。

○大沼尚史委員：

まず、市立図書館の利用経験をふまえてということで、私自身の話ですけれども、学生時代には市立図書館はできておりませんでしたので、高校生のときは学校が終わると山形県立図書館で勉強しておりました。しかし、行くのが少しでも遅くなると、座席が無く帰るしかありませんでした。そのようなことが度々あり、次第に図書館に足を運ぶことが無くなっていったと記憶しております。社会人になってからは、夏の暑い時期等、休日に涼しくて静かな市立図書館の机で仕事の資料を見たり作成したりしていました。年間では4、5日来たくらいだと思います。夏休みの時期等は学生さんがたくさんいて満席に近いくらいで、学生さんが利用できない一般用の席でないと座ることができなかったというイメージがあります。

また、一昨年の12月、スウェーデンの王立図書館で働いている知人にバックヤードを含め王立図書館を見学させていただいたのですが、寒さ厳しい外とは別世界の環境の良さでして、読書や勉強ができる部屋が何部屋もあり、座席数には十分な余裕がありました。いつ行っても座席数等心配すること無く利用できるということは、とても魅力的だと思いました。そのような経験の思いをふまえて、配付資料のアンケート調査結果について読ませていただきました。

はじめに、概要に関する所感を述べさせていただきます。平成4年とコロナ禍前令和元年の入館者数を比べると、令和元年が31パーセント増で10万7802人と。人口減少の中での健常な推移は非常に良好と言えると思います。全市民が1年に2.7回程入館している計算になります。単純に比較できないのかもしれませんが、令和元年の体育施設合計利用者数の18万9879人の数字を横に置いてみても、施設規模やスポーツの幅を考えると図書館が非常に有効に利用されていると捉えました。一方で、書籍の貸出利用者数が減少していますが、先程までのお話にもありましたように、電子書籍もありますしSNS等でいつでも調べることができますので、本自体の必要性が低下していることが理由として挙げられます。スマートフォン等を利用することで時間を消費し、本に触れる時間自体が減少しているのではと思います。その中でも、入館者数が増加している理由は、イベントの開催ですとか簡易の利用が増加した点もありますが、図書館に親しみを持つ方が増えたということは、スタッフの方々の努力によるものだと考えます。アンケート回答の中でも、居心地や快適さについて80パーセント以上の満足度、使いやすさ等も70パーセント以上の満足度となっております。トイレや駐車場に関する課題もありますけれども、これまでの運営が評価された結果だと受け止めました。

次に、さらなる改善点について意見を述べさせていただきます。図書資料の充実やトイレの改修、駐車場の問題、指定管理者制度への移行等は、配付資料に記載のとおり実現性と優先度をみながら改善を行っていくことが良いと思います。私からは特に学習スペースについて課題を提起

させていただきます。アンケート調査結果資料の11ページ問12、上から3番目を見ていただくと、16ページや22ページ等でも示されておりますが、「学習スペースを増やして欲しい」という意見が強く出ております。意見数も多いのはさることながら、私にはこの要望が一番強く印象に残りました。資料の数字にはありませんが、入館者数の内の相当大きな割合が受験勉強等学習を目的としている学生さんだと思います。アンケート回答者1116人の内、382人が「学習スペースを増やして欲しい」と要望しており、特に利用頻度が高いと思われる中学生の回答が主です。配布資料の中のグラフ青色の部分が中学生になりますが、何度も図書館に来ていると思われる中学生がこれだけ多く要望しているところに、強い印象を受けました。最初に、私自身の図書館利用について経験を述べましたが、座席がなければ帰ることになりますし、そのようなことが複数回続けば来なくなってしまうと思います。無論、図書館内のスペースは限られておりますので、できる限りの範囲での座席の増設になるかと思いますが、夏休みや土日は2階の会議室を開放するのはどうでしょうか。実は、祝日の振替休日である2月12日に、図書館とフローラSAGAEの学習スペースを見に来てみました。図書館では座席数の2、3割、フローラSAGAEはガラガラで、時期による違いはあるのか私の見込み違いかなとも思いましたが、今回アンケート調査結果について拝見し、やはり学習スペースについて発言しようと思に至りました。

また、限られた学習スペースにより、実際来てみたら座席が無く帰るしかないということは、受験生にとって一番時間の無駄なことになります。今の世の中ですと、スマートフォンで座席のオンライン予約することができたりしますので、こちらを導入すると利用者数もさらに増えるのではないかと。座席の増設が不可能な場合でも、ぜひこのオンライン予約を検討していただければと思います。先程スウェーデンの王立図書館の話をしましたけれども、学習スペースについては可能であれば空いているくらいで良いのかなと。

あとですね、1点再確認させていただきたいことがあります。駐輪場についてです。アンケートの分析では、駐車場のみ課題として取り上げられており、駐輪場は話題にもなっておりません。資料11ページの問12は、「駐車場・駐輪場を増やして欲しい」という選択肢となっております。中学生の要望も数的に多いということで、自転車を使うと思われる中学生が駐車場を課題として考えているのは疑問ですし、夏休み期間中に私が図書館を訪れた際には駐輪場に自転車が溢れていた気がしております。これは、スタッフの方に駐輪場の状況について確認していただければ明確になるのかなと。自転車が溢れているということは、それだけ利用者がいるということなので素晴らしいことでもあると思うのですが、保護者よりも中学生等の方が図書館のヘビーユーザーだと認識しておりますので、駐輪場のニーズが高いのではと思います。中学生の時に図書館を利用した子が、十数年後大人になって自分の子どもを連れて来たりして、幅広い世代の利用を勧めていくのではと。私からは、さらに魅力ある図書館にするために学習スペースの増設とオンライン予約を課題として提起させていただきます。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。それでは、鈴木多鶴子委員の方からお願いします。

○鈴木多鶴子委員：

魅力ある市立図書館になるためにということで、私も大沼尚史委員と同様に自分の図書館利用について振り返ってみました。小中学生の時は、学校の図書室で本を借りて読んだりしていました。高校は、文化センターの中にかつて図書館があったと記憶しているのですが、その隣の学習室で夏休み等勉強をしていました。大学の際は大学附属の図書館を利用していましたし、子育て中は平成5年から寒河江市に戻ってきたので、子どもが1歳前後でしたので新しい市立図書館に通っておはなし会に参加したり、絵本を借りたりしていました。子ども達が小学校に上がってからは、私が小学校での読み語りボランティアを始めましたので、その際に読む絵本を借りに図書館に来たり、読み語りサークルの打ち合わせで会議室をお借りしたりということで、利用しておりました。小学校から絵本に触れるというのは遅いなと私自身思っておりましたので、仲間とブックスタート事業の前身である赤ちゃん検診に合わせた「絵本の部屋」の活動も始めたのですが、その時には乳幼児健診の会場であるハートフルセンターに、市立図書館の赤ちゃん絵本を持ってきていただいたの読み聞かせや絵本の橋渡し等関わっておりました。当時、市立図書館にも赤ちゃん絵本が少なかったので、赤ちゃん絵本を増冊する企画もさせていただきました。

そして、現在では小学校での読み語りボランティアも私はしておりますので、たまに読み語り用の絵本を借りたり、読み語りの出張イベント依頼があれば大型絵本等を借りに図書館を利用している程度で、なかなか最近では図書館を利用する機会は少なくなっている現状となっております。会議では頻繁に図書館を利用しているのですが、本来の目的では利用はあまりできていないかと。

「絵本の部屋」での乳幼児に向けた読み聞かせ活動や、小学校全学年全クラスに入っの絵本読み語り活動を始めた理由は、小さい頃から絵本の楽しさに触れて心豊かな子どもになって欲しいという思いと、本好きな子どもになって欲しいという思いからでした。最近では、小さい頃から読み語りを経験した子どもは本好きになるとか、脳科学的にも良い影響があるという研究データもあるようです。また、そういった寒河江市内全小学校で絵本の読み語りがあつて何年か経った頃に、読書推進委員がいくつかの学校に配置され、今では全小中学校に配置されています。厳密には、読書推進委員から名前も変わり事務的な業務も含めての活動になっています。そういった読書に関わる方が全小中学校にいるというのは、子ども達にとって大きな影響を与えるのではないかと。ただ、現在は読書の専門的な方だけでなく事務を得意とする方も配置されているようでして、この方達と市立図書館との関係をもっと密にしながら、各小中学校の図書館の司書の役割ですとか子ども達への本の橋渡しの役目をさらにしていただければ、小中学生がもっと本に関わる機会があつたり、本の世界が広がったり、本を楽しむ子ども達が増えるのではないかと。私達が本の読み語りに小学校へお邪魔して絵本の橋渡しの種まきをしたところに、読書推進委員や市立図書館の職員の方に活動を広げていただけたら、もっと本が好きな豊かな心をもった子ども達になるのかなと夢を描いていたところです。

まとめてくださったアンケートを見ますと、私自身も思い当たることがあるなと思いました。本日も2階から図書館を俯瞰したときに、とても穏やかに図書館を楽しんでいる方達が何人かいらっしゃいました。良い点もあればやはり欠点もあるように感じておまして、これまでも市民の要望を聞きながら改善を行ってきたことは承知しております。以前はもっと駐車場が狭く大変な思いをして駐車しておりましたし、駐車場と図書館が離れていたの小さい子どもを連れて遠くから歩いていかなければならないとか、後ろ側の入り口からは入れず回り込んで正面からしか入れないとか。西側にある広いスペースを駐車場に整備してもらえればなど何度も思いました。

そういった駐車場の改善を少しずつしてくださっていますが、まだまだ改善の必要があると感じております。今、寒河江では車社会でありますので、駐車場の広い近隣市町村の図書館の方が便利だという声もあります。ぜひ、その辺りのことを改善して欲しいです。

それから、カフェ導入についてですが、数年前からコーヒー等飲むことのできるスペースを導入していただいて、少しずつ市民の要望を聞いていただいているところですが、これからの図書館に望むもの等を考えるともう少し工夫が必要かなと。

あとですね、赤ちゃんボランティアの導入ということで、毎週火曜日の午前中だと記憶しているのですが、それはとても良いことだと思います。赤ちゃんから絵本に接するような、お母さんの支援になるような取り組みが続いていくことを願っています。

ここで、今私達が図書館に求めることは何かということを考えました。どういう図書館であれば利用したいと考えるのだろう、図書館に何を求めるのだろうと。アンケートにありました「スターバックスのある図書館」というものが目につきました。具体的には、多賀城市立図書館のことが触れられていましたが、私は3年ほど前に佐賀県にある武雄市立図書館に行ってきました。とても広く、蔦屋書店が併設されておりスターバックスもあります。雑貨を見たり本を見たり、買いたい本を蔦屋書店で買うことができます。図書館で借りた本をスターバックス内でコーヒーを飲みながら読むこともできました。そこでは、おしゃべりもできるので、同行の友人とくつろぎながらゆったりとした時間を楽しむことができました。そのときに、「私が行きたい図書館というのは、くつろげる場所だな」と思いました。年代にもよるかと思いますが、私が今求めているものは、くつろいで読書をしてゆったりとした時間を過ごすことができる図書館です。そこではコミュニティも生まれますし、居心地の良い場所において色々なものを見ると、ストレス解消にもなりますし色々な本が目に入るようになると思います。武雄市立図書館とは別棟で子ども図書館というものもありましたので、そちらも見てきました。子ども達が遊ぶ知育玩具等が置いてあったり、大人が利用する図書館とは別棟ですので話しても気にならない場所でした。記憶と齟齬があると申し訳ないと思い武雄市立図書館をインターネットで調べたところ、とても見やすいホームページでして、「図書館に行ってみたいな」と想起させる中身でした。イベント等も魅力的に掲載されており、写真もありますので何がどのように行われたのかわかりやすいですし、館内の混雑状況や新刊図書、人気図書ランキング等も載っており、資料を探すにも大変便利でした。イベントに関しては、「子ども図書館お仕事体験」というものもあり、魅力的な内容のイベントが掲載されておりました。

では、寒河江市立図書館のページはどうかというと、武雄市立図書館の後に見たからというものもありますが、見づらく、あまり「見てみよう」という気持ちにはならないページだったので、せめて図書館のホームページだけでももっと見やすく、「このイベントであれば行ってみたい」と子ども達が思うようなページにまず変えていただきたいなと思いました。来年度から市立図書館が指定管理になるということで、指定管理者の活動を拝見したところ、移動図書館やボードゲーム等書いてありましたけれども、やはり居場所的な役割が大きいのではないかと。今、社会に何が足りないかということ、居場所だと思います。ボードゲーム等を通して子どもや大人、中高生等が図書館に集い、居場所ができたことにより館内の本にも興味を持つようになるのかなと。もっと広い意味で図書館が「仲間と読書を楽しむ居場所」になると良いなと思います。移動図書館にしても、移動先の地域の方々が集まってくると思いますので、交流の場としても期待しております。

す。

前述の子ども図書館については、今年チェリーランド敷地内に新しくできる屋内型児童遊戯施設に絵本等を置くスペースがあれば、そこが子ども達の図書スペースになるのかなと思いました。やはり、これからは地域の居場所や交流を含めた図書館づくりを期待したいところです。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございます。実際の施設に対するご意見ですので、非常に具体的なご要望が表れていると思います。そういう意味では、文体は優しくても相当厳しい内容だと佐藤教育長も私も理解しているところです。指定管理者制度への移行は、少しでも改善するのではないかと期待しているわけであって、そういうところも含めて4名の教育委員の皆さんからご指摘あったことを中心に、佐藤教育長の方から意見をいただきたいなと思います。

○佐藤志津男教育長：

色々な面からのご意見ありがとうございます。皆さん共通しているのは、まずいかにして図書館に人が来てもらえるようになるか、そして図書館に居場所があるかということだと思います。昔の図書館のイメージですと、静かに本を読んだり勉強したりといったものですが、今は違います。武雄市立図書館について鈴木多鶴子委員が先程紹介してくださったり、スウェーデンの図書館についても大沼尚史委員が紹介してくださいましたが、図書館に来てゆったり過ごしたり友達と話をしたり等含めて、今後の図書館像なのかなと。大沼賀世委員からお話あったように、子どもを図書館に連れて来て声を出したりすると「静かに」と注意されたことで、少し行きづらいうことで、同様の内容がアンケートにも書かれておりましたが、そういったことがないような図書館になっていかないと、人が来ないという状態にもなっていくので、その辺りを今後の検討課題にしていきたいと思います。アンケートでも、図書館に来た人は「使い勝手が良い」「居心地が良い」と回答していますが、来たことがない人もいますし、来たことがあっても年に1、2回と回答した方が6割程度いまして、やはりまだまだ利用が広がっていないという現状です。そういった人達を呼ぶためには、もちろん今もイベントを開催しておりますし正面玄関横の展示スペースを頻繁に更新して利用者増の努力をさせていただいておりますが、指定管理者側のノウハウを活かした楽しいイベントを開催する必要があるかなと。図書館は勉強しに行くところという敷居の高いイメージを少しでも変えるような、足を運びやすいイベントを企画していただきたいなと思います。

また、利便性の面で、スマートフォンで図書やイベントを検索したり座席の空き状況を把握するシステムをもっと広めていく必要があると思います。今、市のLINEアプリを登録して下さっている方にはイベントの告知がいきますが、幅広くという面ではなかなか足りないところがあると感じますし、図書館のホームページも見づらいというご意見もありますので、そういったところも今後改善していかなければと思ったところです。以上です。

○佐藤洋樹市長：

駐輪場やトイレといったハード面での課題もありますが、できるところから一つ一つしていかなければならないといったところですが、施設に関しては指定管理者ではなく市の方で対応していくことになりますので、全て一気に取り掛かるわけにはいかないですが、きちんと対応していく必要があると思います。あとですね、大沼尚史委員からお話ありましたが、私の認識だと図書館は勉強するところというよりは調べものをするところだと思うのですが、勉強するとなるとフローラSAGAEの方がスペースもありますので、もしかすると、図書館の設計自体、勉強することを考えていないのかもしれないかもしれません。

○鈴木多鶴子委員：

夏休み等長期休暇の際には、図書館の2階を開放して欲しいなと思いますね。

○佐藤洋樹市長：

あとですね、勉強不足で申し訳ないのですが、今学校の図書室というのはどのくらい機能しているのですか。司書の方は基本的には配置していないということでもよろしいでしょうか。

○佐藤志津男教育長：

司書はいませんが、中学校には司書教諭という資格を持った教諭はいます。先程、鈴木多鶴子委員からお話あったように、教育活動支援委員が今は事務的な役割も担いながら、学校によっては、本の紹介や季節ごとの装飾を熱心に行っていて、子ども達の興味関心を惹いてくださっている方もいます。ただ、現実問題として、小中合わせて学校による差はあるかもしれません。

○鈴木多鶴子委員：

その差を何とかして欲しいです。どこの学校も図書室をきちんと整備していただきたいと思います。

○佐藤洋樹市長：

市立図書館と学校図書館との連携はあるのですか。例えば、学校にはない本を市立図書館に連絡して借りるとか。

○佐藤志津男教育長：

あります。長期の団体貸出という扱いで、数十冊という単位で1か月程度学校に市立図書館の本を貸出して、学校で子ども達に貸出するという。この制度を利用している学校も少なくないです。

○鈴木多鶴子委員：

そういった連携はありますけれども、各学校の図書館の整備や改善の指導等を市立図書館の方でしていただけないかなと思っております。

○佐藤洋樹市長：

あともう一つ、移動図書館の話が出ておりましたが、山形新聞に以前読者からの投書で「移動図書館みたいなものがあれば良い」ということが載っていて、私もどうにかしなければと思っていたところでした。そうしたところに今回指定管理者側の取り組みの中に移動図書館があり、これは良かったなど。先程の渡邊健一生涯学習課長の説明だと慈恩寺テラスやチェリーランドで移動図書館を、という話でしたが投書を掲載したようなご年配の方だとなかなか厳しいのかなど。難しいことは承知の上ですが、ご年配の方達の要望にも応えられるような移動図書館にしていかなければならないと思います。

○渡邊健一生涯学習課長：

3週間で本を返却しなければならないので、3週間に1回町内を回ることができるかという問題もあります。

○佐藤洋樹市長：

返却期限をもっと延ばしたら良いのでは。

○渡邊健一生涯学習課長：

そういったところも含めて、要望に応えることができるよう検討してまいります。

○佐藤洋樹市長：

皆さんの方から他に何かございますか。それでは、時間も限られておりますので二つ目のテーマに移ります。

(2) 生涯スポーツ社会の実現とスポーツ実施率の向上について

○佐藤洋樹市長

それでは、(2) 生涯スポーツ社会の実現とスポーツ実施率の向上についてということで、渡辺智昭スポーツ振興課長、お願いします。

○渡辺智昭スポーツ振興課長

次第のとおり進めさせていただきます。実施計画についての配付資料をご覧ください。1の策定目的ですが、これまでスポーツの役割を重要なものと捉え、スポーツに親しみ心身の健康を育む町づくりを掲げ、市民一人一人が各々の体力や年齢、技術や興味、目的に応じ、いつでもどこでも誰でもスポーツに親しむことができる環境づくりを推進していくと。こうした中、国で平成23年に社会環境等の変化に対応するため新たにスポーツ基本法を策定したということがありまして、これを受けて平成28年3月に本市でもスポーツ基本法ならびに国や県の政策を踏まえ計画的にスポーツ推進に取り組むことを目的とした、寒河江市スポーツ推進計画を策定したということであります。その後令和3年に見直ししたものが、計画書のものとなります。

2の基本目標ですが、全ての市民がライフステージやそれぞれの関心目的に応じて、いつでもスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支えることで、スポーツを通して人とつなが

り、地域とつながり、明るく活力に満ちた、健康を享受できる社会を実現することを目指すということで、「スポーツでつながるまち寒河江 人の和 地域の輪～みんなで参加 健康で活力ある豊かなまち寒河江を目指して～」というような将来像としたところです。令和3年度のことですが、体育施設の年間利用者数の目標として20万5000人を掲げたところです。令和元年の年間利用者数は18万9879人という実績でした。

資料2ページになりますが、前述の基本目標を実現するために4つの基本方針を定め、交流人口の拡大による地域活性化を目指した取り組みと、感染症等を踏まえた多角的なスポーツ実施形態を観点として取り組むということで、基本方針1が誰もが気軽に楽しめるスポーツ活動の推進、基本方針2が競技力向上に向けた取り組みの推進、基本方針3がスポーツ環境の整備と充実、基本方針4がスポーツを通じた地域活性化の推進というところとなります。この4つのうち、基本方針1を特に推進していくところとして、内容としては、誰もが体力や年齢、興味等に応じて気軽にスポーツに親しむ仕組みづくりを進め、生涯スポーツ社会の実現を目指すということをしていくところとなります。これを取りあげて、計画策定当時の課題に対する現在の取り組み状況と新たな課題についてご説明いたします。

資料3ページをご覧ください。基本方針1誰もが気軽に楽しめるスポーツ活動の推進ということで、市民一人一人が、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでもどこでもいつまでもスポーツに親しむ仕組みづくりを進めるといったところで、生涯スポーツ社会を実現していきたいと考えております。その内容として、成人の週1回以上のスポーツ実施率を65パーセント、週3回以上のスポーツ実施率を30パーセントとなることを目標として取り組むということになります。また、成人スポーツの未実施者、これは1年間に一度もスポーツをしない方のことを指しますが、そういった方の数をゼロに近づけるということも、あわせて目標としていくところです。

(1) スポーツに親しむ活動の推進についてですが、こちらを最も重視する課題としまして、資料のようなアンケート結果1～7となっております。例えば、問1の「自由時間をどのようにお過ごしですか」というところでは、「スポーツ」と答えた方が平成23年は13パーセントでしたが、令和2年度では16.2パーセントになっています。若干パーセントは増えておりますが、グラフの中身を見ると「家でごろごろしている」と答えた20代が30パーセント程度いることがわかります。

また、問2の「自由時間の過ごし方について、どのようにしたいと思えますか」では、「スポーツをしたい」と答えた方が平成23年は31パーセント、令和2年度では29.8パーセントということで、若干減ってきております。以上のことを踏まえると、やはり「家でごろごろしている」や「休養や家族との団欒」と答えた方が多いのかなという印象です。

問3の「日常生活の中でスポーツをやりたいと思う時がありますか」では、「よくある」「時々ある」と答えた方をあわせて平成23年は73パーセント、令和2年度は68.4パーセントということで、こちらも少し減っております。

問4の「ふだんスポーツをどの程度行っていますか」では、「全くしない」と答えた方の割合が目立ちますが、「ほとんど毎日」「週に3～4回程度」「週に1～2回程度」と答えた方をあわせて平成23年は30パーセント、令和2年度では37.4パーセントということで、若干増えています。

問5の「スポーツを行わないのはどんな理由からですか」では、資料4ページ下部に記載ありますが、「仕事や家事で忙しく時間がない」と「疲れてやる気がない」と答えた方をあわせて平成23年は34パーセント、令和2年度では40.4パーセントとなります。一方、「一緒にする仲間がない」「指導してくれる人がいない」「きっかけがない」と答えた方をあわせて平成23年は31パーセント、令和2年度では26.1パーセントと減っております。また、回答年の前年中定期的に行ったスポーツを聞いたところ、平成23年も令和2年度も「ウォーキング・散歩」が最も多く、現在行っているものも含め今後やってみたいスポーツでは、平成23年は「水泳」で令和2年度では「ウォーキング・散歩」でした。2番目に多かったのは、平成23年が「ウォーキング・散歩」で令和2年度が「水泳」でしたので、全体的に「ウォーキング・散歩」と「水泳」の割合が多いのかなという印象です。

資料6ページをご覧ください。問6「昨年中（令和元年）に行ったスポーツの主なものを5つまであげてください」と問7「現在行っているスポーツを含め、今後やってみたいスポーツを5つまであげてください」の回答結果をまとめたグラフを見ると、どちらも「ウォーキング・散歩」の割合がどの年代も非常に多いことがわかります。

これらの課題を解決するための施策展開の方針としてですが、スポーツには様々な種目があるとともに、スポーツを行う人もそれぞれのライフスタイルの違いや体力、スキル等多様な特徴を持っております。そのため、誰もが自分の体力等に合ったスポーツに取り組めるような環境づくりを行う必要があります。特に、本市の特性を活かしたスポーツの推進が大事だと感じております。また、スポーツを通じた人とのつながり創出にも努めていかなければならないと考えております。障がい者のためのスポーツ活動の機会を提供したり、障がい者と健常者が障がいの有無に関わらずスポーツを一緒に行うことで交流を促進することも大事だと思います。

主な取り組みとして、資料6ページにア～クまでありますが、この取り組みについて現在の実施状況と課題を説明させていただきます。

(1) アの市民一人一人の状況に応じた取り組みの推進についてですが、①スポーツ実施率の向上を図るため2つの観点から取り組みを実施ということで、(a)ライフステージに応じた取り組みとして、スポーツ教室を未就学児童や小中学生、一般に分けて市スポーツ協会に委託して実施しているところです。また、高齢者につきましては、福祉部門で対応しているところです。(b)スポーツの活動状況等に応じた取り組みとして、誰もが気軽に楽しめるスポーツを始めるきっかけづくりということで、モルック体験会やボッチャの出前講座を実施しているところです。また、アーバンスポーツ体験としてスケートボード、BMXスクール、ボルダリング教室等を開催して興味関心の高まりを目指しております。②課題としては、壮年期中年期への働きかけがまだ十分ではないということ、「きっかけづくり」の後の「スポーツ仲間の作り方」や、スポーツを「続ける」「広げる」ための支援をしていく必要があることが挙げられます。

(2) イのウォーキングの取り組みの推進についてですが、①寒河江川や慈恩寺といった寒河江ならではの資源を活用したウォーキングイベントを開催しまして、令和5年度の実績になりますが、さくらんぼウォーク2023を令和5年6月17日に実施しまして、チェリーランド河川敷発着ということで寒河江探訪コース12kmとさくらんぼ畑散策コース7.5kmを合計約700名の方に参加いただきました。また、オクトーバーラン&ウォークということで、10月1か月間のウォーク歩数やランニング距離等をスマートフォンのアプリを活用して記録し、ランキ

ングを競うオンラインイベントを行いました。寒河江市内の方だけで合計207名が利用したということです。②の課題についてですが、ウォーキングコースやクラブ等の整備を行う必要があること、ウォーキングイベントの時だけでなく「続ける」ための支援が必要であることが挙げられます。

(3) ウのスポーツ団体の連携と健康づくりの推進についてですが、①生涯スポーツ推進事業として、市スポーツ協会に委託して令和4年度に実施したものを説明します。未就学児対象のちびっ子スポーツ教室を計20回行い、延べ576名に参加いただきました。小学生対象のジュニアスポーツ教室は計22回行い、延べ726名に参加いただきました。小中学生対象のスキー教室は1月7日に行い、35名に参加いただきました。今年は雪がなく中止となりました。一般対象としてはゴルフ教室を行い、計18回で延べ328名に参加いただきました。また、ボルダリング教室は1月28日に行い47名の参加、モルック体験会は計5回で延べ217名の参加となりました。このモルックとは、誰でもできるスポーツでして、頭を使うところもありますので人気があるようです。②課題としては、これらの教室は市スポーツ協会と総合型地域スポーツクラブ（アスポート寒河江）が連携して実施しておりますが、指導者の育成や高齢化対策も必要なことが挙げられます。

(4) エの地域特性を活かしたスポーツの推進についてですが、①グリバーさがえの多目的水面広場を活用した東北・全国クラスの大会の開催ということで、令和4年度にトライアスロンの日本選手権を開催予定でしたが豪雨災害で中止となり、令和5年度も大会会場である水面広場が使用できないということで、日本デュアスロン選手権を実施しました。令和6年度については、日本スーパースプリントトライアスロン選手権をグリバーさがえで開催予定でありまして、盛り上がっているところです。②課題としては、「スポーツツーリズム」の観点の一つである「見るスポーツ」としてこれらのスポーツが、市民に今一つ浸透していないということが挙げられます。

(5) オの障がい者スポーツの推進についてですが、①聴覚障がい者の団体にモルックの出前講座を実施しまして、障がい者と手話通訳者、スポーツ推進委員が連携して講座を開催しているところです。また、同じ聴覚障がい者の方ですが、スポーツレクリエーション祭にも参加していただきました。②課題としては、練習場所や指導者の確保が急務であること、障がいのある人とない人が一体となった形で運動やスポーツができる仕組みの構築が必要であることが挙げられます。

(6) カのスポーツ推進月間についてですが、①10月のスポーツの日に「市スポーツレクリエーション祭」を実施しまして、市民にニュースポーツへの参加を促しました。②課題としては、10月をスポーツ推進月間にした場合の周知と市民のスポーツ実施への動機づけが挙げられます。

(7) キの新しく手軽なスポーツ普及についてですが、①旧幸生小学校の体育館を実証実験としてスケートボードの練習施設として貸出しているところです。スケートボード施設として体育館を整備させていただきまして、開設から約1年になりますが約2000人の方が利用しています。また、スケートボードビギナーズスクール等の開催もさせていただいております。②課題としては、市民への周知と参加者の増加や地元との連携、新規に設立され今後活躍が期待されている市アーバンスポーツ協会との連携、アーバンスポーツ等の施設や設備の充実が挙げられます。

(8) クの身近な施設でのスポーツ活動の推進についてですが、①市スポーツ推進委員を講師として、令和5年度の実績になりますが、モルックを5回延べ82名の参加、ボッチャを7回延

べ144名の参加、ピロポロを1回約100名の参加、グラウンドゴルフを1回約40名参加で実施しました。②課題としては、参加者が継続して実施できるような機会や施設の確保、市民の方々への一層の周知拡大が挙げられます。

このような課題を受けまして、2の今後の取り組みと課題解決のための方向性ということで、最初に述べた体育施設の年間利用者数は、令和元年度は18万9879人となっておりますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やグリバーさがえの被災、市民プールの劣化等もあり、令和4年度の利用者数は10万806人となっているところです。令和5年度12月末時点、これは9か月の実績ということになりますが、利用者数は9万8544人で、昨年と比べると増加傾向にあると感じておりますが、令和7年の目標である20万5000人に対しては開きがある状況です。

スポーツを始めるためのきっかけづくりを始め、様々な取り組みを実施しておりますが、仲間づくりの強化や練習場所の確保、情報提供の充実等課題がありまして、「続ける」「広げる」といった部分を支援していくことが重要だと考えております。アンケートにもありますように、スポーツをやらない理由として「忙しく時間がない」「疲れてやる気がない」としている割合が高いため、引き続き多様な生活スタイルに対応した対策が必要になってきているのかなど。

また、市民がそれぞれの状況にあわせて、スポーツを「する」「観る」「支える」といった様々な形でスポーツに参加できる「支え合う」環境を整えることも大切な取り組みであると考えます。そのためにも、「スポーツに親しむ活動の推進」の面からは、今後、以下のような取り組みを実施しながらスポーツ人口の拡大を図っていきたいと思います。一つ目は、生涯スポーツを継続する方法として、ウォーキング歩数によりポイントがもらえるような制度をつくり活用していくことです。二つ目は、パリオリンピック・パラリンピック開催予定の今年、アーバンスポーツやスポーツクライミング、スケートボード、BMXフリースタイル、3X3バスケットボールの再ブレイクが予想されるため、これらの状況を注視しながら、施設整備等に努めていきたいと考えております。三つ目ですが、グリバーさがえの多目的水面広場を活用したトライアスロンの日本選手権はもとより、国際大会開催も視野に続けていきたいと考えております。四つ目が、スポーツの日がある10月はスポーツ推進月間として、市スポーツレクリエーション祭の充実を図りながら、生涯スポーツの普及を強化していくことです。五つ目ですが、モンテディオ山形の寒河江市応援DAYのある月を応援強化月間としてPRし、多くの市民からモンテディオ山形の試合を観戦いただき、スポーツへの関心を醸成して、観るスポーツの普及を図っていくことです。

現在、部活動改革が進行中でありまして、子ども達を取り巻くスポーツ環境も変化しつつあります。地域クラブが中心となったスポーツへの取り組みが地域へと広がり、様々なスポーツに親しむ機会や環境がつけられようとしているところです。部活動改革の大きなねらいは、生涯スポーツの充実であり、こうした動きと連動させながらスポーツに親しむ人達を増やしていくことも必要だと認識しているところです。また、市のスポーツ推進計画の基本方針2から4に掲げている「競技力向上に向けた取り組みの推進」「スポーツ環境の整備と充実」「スポーツを通じた地域社会活性化の推進」の面からも、全国・東北大会規模の大会の誘致、企業によるスポーツ活動への参画の推進、さくらんぼマラソン大会等のスポーツイベントを支えるスポーツボランティア活動の普及促進等についても力を入れていきたいと考えております。基本目標にあるように、全ての市民が、いつでもスポーツに「親しみ」、「楽しみ」、「支える」ことで、人や地域とつながり、明るく活気に満ちた社会となるよう取り組んでいきたいと思っております。

以上、現在の課題に対する取り組み状況について、説明いたしましたがお意見等いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○佐藤洋樹市長：

それでは、鈴木淳一委員の方からお願いします。

○鈴木淳一委員：

資料を読ませていただきまして、少しお話をさせていただきたいと思います。スポーツは体づくりではなく、心も鍛えることができ、ルールやチームワークを学ぶためにも、幼少期から青年期には特に重要であると私は考えておりました。また、剣道や柔道は、礼儀を学ぶということで、日本独特の競技であると認識しております。しかし、これまでは、若い方は学生時代で経験してきたスポーツをそこで辞めてしまいます。そのことを、室伏広治スポーツ庁長官は懸念しているのかなと。せっかく学生時代に楽しんだものを、そこで失わずに生涯続けるものが、生涯スポーツとしての位置づけなのかなと思いました。それが、いつの間にか大人になると、趣味という形のスポーツにするのかなと。そこから高齢になればなるほど、ほとんどの方がスポーツをしたくてもできない体になっていくのが通例だと思います。しかし、生きていくため健康のためには、運動が必要不可欠であるということは、皆さん理解されているところかと。資料の中で、「気軽に誰でも楽しめるスポーツ」という話がありましたが、アンケート結果にもあるように、スポーツを推進していくためには、歩くということが気軽にできることなのかなと思います。歩きスマホは危険ですので推薦はできませんが、街中を見ますと、ポケモンGO等ゲームアプリを開きながらウォーキングしている方がいました。また、万歩計の機能がついたアプリを利用している方もおり、そのようなアプリもあるのだなと勉強になりました。気軽にスポーツをするという話を家族でしたときに、冗談混じりに「ゴルフはどうですか」と聞いてみたところ、家族からは「ゴルフはレジャーではないか」と言われ、スポーツとレジャーは相反するのかなのか議論が分かれました。スポーツは観ることも大事だということで、バスケットボールの漫画を読んだりワールドカップの試合を観て感動し、真似てスポーツをやってみたいということで、影響を受けている方はいるのではないのでしょうか。また、生涯スポーツの中の一つの取り組みとして、スポーツを支えるという項目があります。支えるということはやはり金銭面のこともあり、応援するというかたちで「支える」＝「地域活性化」なのだなと改めて思ったところです。スポーツは毎日ニュースで取り上げられるジャンルでもありますし、日常に欠かせない大事なものなのだなと思いました。

寒河江市のスポーツへの取り組みとしても、数多くのイベントや大会を開催していただいていることは、皆さん承知の上だと思います。さらに新たな取り組みも毎年増やしていただきたいところではあります。見たこともないスポーツが次々と登場する時代になりましたが、アーバンスポーツという観点がその主たるものだと思います。市内では、寒河江駅からフローラSAGAEの空いたスペースに3ON3のコートが整備予定であり、工業団地にはクライミング施設が建設中であります。その他、スケートボード関連も活発な動きがあるそうで、私が調べたところ寒河江市の姉妹都市である寒川町でも盛んであることがわかりました。せっかくですので、姉妹都市同士でスケートボードやBMXをきっかけとした子ども達の交流を目指したら良いのではないかと

と思います。

しかし、今の子ども達のスポーツ少年団のことを調べると、数年前から参加人数がかなり減少しているようです。また、中学生は、部活動改革といって平日は火曜日水曜日金曜日の3日間、土日はどちらかの参加ということで、週4日間で活動しているようです。私達の時代とは違って、今の子ども達は運動する機会が少なくなっているように思えます。今の子ども達はこのくらいの頻度で足りないのかちょうど良いのかは聞いてみないとわかりませんが、今後、大会等はどうなっていくのかということには心配です。スポーツの機会が失われているということで、先程の市立図書館の情報公開の件もありましたが、スポーツに関しても情報発信を行い、「やりたいスポーツはここにある、寒河江」というようなキャッチコピーで、ぜひスポーツが盛んな町づくりに取り組んでいただければと思います。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。それでは、大沼賀世委員お願いいたします。

○大沼賀世委員：

寒河江市等で取り組んでいるスポーツの年間計画を見ると、様々な種類で様々なイベントをされていると感じております。チェリーナやグリバーさがえ、体育館やプール施設ということで、スポーツをする施設も整っているということもありますし、子ども達向けの体験教室も行われており、さくら連絡網でのチラシ配付等でそれらを周知していて、参加者も増えているように思います。私自身は参加しなかったのですが、娘達と夫がボルダリング体験教室に参加させていただきました。非常に楽しく、1回体験してみることでハードルが下がり、ボルダリングをやりたいという気持ちが強くなったそうです。まずは、体験してみるということが大事なのかなと思いました。今回、スポーツというものはどこからを指すのだろう、レジャーとスポーツや遊びとスポーツの区切りが難しいなと思いながら、アンケート等を見ていました。体を動かすということをして全てスポーツとするなら、資料にもあるようにウォーキングはスポーツの一環でありますので、やる人は増えるのではないかと。私がいつも感じているのは、老朽化ということもありますが、市民プールが夏だけでなく通年で利用できるようなになれば、競技人口の方も増えるのではないかとことです。そこでプール教室等増えると、全身動かすことができる水泳やアクアフィットネス、ウォーキング等は非常に利用者が増えると思います。

先程、部活動やスポーツ少年団の話も出ましたが、私自身も小学校でスポーツ少年団をやっております。中学生高校生時代はジュニアリーダーとして、リーダー研修に参加してきました。県・全国・ドイツの研修に参加し、これまで競技としてのスポーツとしてのイメージが強かったのですが、ドイツに行ったときに公園等で家族や友達とスポーツを楽しむ姿がとても印象に残っております。高校生のときの話なのでかなり前にはなりますが、それが今、これから必要である生涯スポーツの形なのではないかと感じております。スポーツをしていない人やするつもりもない人、または始めたいけれどもきっかけがない人に対するきっかけづくりというのも大切です。一人ではなかなか始めることができないスポーツですので、仲間と楽しみながら続けることのできるサークル等ができれば、参加しやすくなると思います。これは中学校の部活動にも言えることですが、勝ちたいスポーツだけではなく、楽しみたいスポーツをするクラブがあっても良いの

かなと。一番気軽に始めることができるのは、道具のいらぬランニングやウォーキングですが資料の取り組みにもありましたように、おすすめウォーキングコースをマップ等で作ることができれば、わかりやすく良いのではないかと思います。また、サイクリングコース等も充実すると、休日のスポーツを楽しむ姿を見ることができるのではないのでしょうか。

先日、ニュースで「子どもロコモ」が増えていると報道していましたが、ロコモというものが聞き覚えなかったもので調べたところロコモティブシンドロームの略で、資料では「高齢者のロコモを防ぐ」とありますが、子どもでも例えば「雑巾がけができない」「前屈ができない」子が増えているそうです。それは、姿勢の悪さや日頃の運動不足から来ているということで、学校の体育の授業では賄いきれない部分もあるのかなと感じておりました。家族で楽しむことができるイベントがより増えると、子どもも参加しやすくなると思います。

また、観るスポーツ、参加する側で支えるスポーツということで、実際の試合を観ることでそのスポーツをやってみたくなくなるだけでなく、また観戦しに行きたくなくなるということもありますので、毎年行われているモンテディオ山形の寒河江市応援DAYのほか、楽天イーグルスの応援DAY等もあつたら良いのではと思います。ウォーキング歩数をポイントにする制度の話もありましたが、移動時間をポイントに変えるアプリが実際にあるそうです。寒河江市に還元しないと意味がないと思いますので、例えば、これをチェリンPAYに交換できるようにする等スポーツとチェリンPAYを連携したシステムができれば良いのかなと。私自身もあまりスポーツをしている方ではないので、スポーツを楽しむことを心がけていきたいと思っております。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。大沼尚史委員、お願いします。

○大沼尚史委員：

寒河江市のスポーツ推進計画を読ませていただいて、スポーツが青少年の人格形成に大きな影響を与える力があることや、生涯にわたって心身の健康を守ることの意義の重要性を再確認いたしました。自分も、毎日大谷翔平のホームランや投手結果、最近ですとどんな練習をしたとかキャンプをしたとかを知るのが楽しみでしたし、去年はラグビーワールドカップやサッカーの日本代表の試合を観ることが生きがいになっておりました。

それでは、生涯スポーツ社会の実現とスポーツ実施率の向上のための意見や方法についてですが、アイデアをいくつか述べたいと思います。

まず1点目ですが、仲間づくりの強化や情報の提供の仕方、続ける広げるといったことが重要な課題となっていると。これについて、現在SNSをどのように活用しているのかなと思います。私もLINEアプリで「寒河江市」とか「スポーツ」といった言葉を検索してみたのですが、出てきたのは寒河江市の公式ホームページと寒河江ゴルフクラブだけでした。非公式のグループはおそらく沢山あると思うのですが、先程市立図書館の件で佐藤教育長も話していた、一度グループに入ると新しいイベント等は自動的にそこに送られるといったような仕組みも良いと思うのですが、仲間づくりの強化や続ける広げるということに関してはやはり双方向でつながることが大切かなと。SNSのグループに入ると仲間意識が高まり、忙しくても一言返信したくなるということもありますので、例えば旧幸生小学校のスケートボード教室専用のSNSグループを作

り、主催者側の情報はもちろんですが、参加者同士がコミュニケーションするようなことができると、続ける広げる仲間づくりになっていくのかなと。自主的に活動している方々は、既にグループを作ってこのようにしていると思います。主催者側担当者側の熱意もあり大きく変動することは承知の上ですが、仕掛ける方も工夫していく必要があると思います。やはり、片方向ではうまくいかないのではないかと思いますので、双方向のSNS活用をしていくことが、課題解決の一つの可能性になってくるのかなと考えます。

2点目ですが、課題として、ウォーキングの取り組みの中で具体的なコースやクラブの整備を進めることが挙げられておりますが、これはぜひ進めるべきだと思います。渡辺智昭スポーツ振興課長の説明にもありましたように、アンケートの「やってみたいスポーツ」の圧倒的1位ですし、実際私が自分の畑やチェリーランドにいるときもウォーキングしている方が沢山います。ニーズが非常に高いと思います。ほとんどの人は一人でウォーキングしているので、クラブができて仲間もできれば、「スポーツでつながるまち寒河江」の具現化となり、健康と活力増になるのかなと。ここで一つ、私のアイデアを述べさせていただくと、資料を見るとイベントとして12km等長い距離になっておりますが、ウォーキングしている方は毎日続けることが健康増進の目的でもあると思いますので、コースをですね、スポーツツーリズムや健康づくりエリアの拠点として期待しているチェリークアパークからグリバーさがえまでにすることを検討できないかなと。チェリークアパークからドッグランまで非常に景観も良いですし、温泉に入って帰ることもできます。ドッグランから旧温泉まで一部道路整備していますか。

○佐藤洋樹市長：

ドッグランから旧市民浴場までの間の道路ができるんですよ。今、国土交通省の方で道路を整備していく話がありまして。いわゆる遊歩道のようなものが、一体的にできるそうです。

○大沼尚史委員：

グリバーさがえまで、素晴らしいコースになりそうですね。それで冬もですね、チェリーナさがえでラジオ体操をして、敷地を20周して帰ろうとか、そういうこともできるのではないかと。あくまでアイデアですけれども、ニーズのあるウォーキングのクラブ等を作っていただきたいなと思います。

3点目ですが、障がい者スポーツやモルックをやる場所を整備する必要があるということで、参考になるのかはわかりませんが、フローラSAGAEの3階中央広場だとスペース的に良いのではないかなと思います。広場の隣には別のスペースがあり、実際に勉強している方もいるためそこの兼ね合いもありますし、施設の管理者とも調整する必要がありますが、案としてはどうかかなと。

最後に、4点目として、グリバーさがえの利用についてです。とても素敵な場所で、もっと活用すると良いと私も思います。そこで、グリバーさがえでキャンプができるようにはならないかなと。キャンプはスポーツとは言わないかもしれませんが、自然の中の健康的な活動ですし、グリバーさがえのカヌー等ウォータースポーツとの親和性もあるのではと思います。水辺でキャンプをしながら色々なスポーツができるということは、とても魅力があるのではないかなと。グリバーさがえの川を挟んだ中山町の河川敷では、春から秋まで多くのキャンパーでいつも賑わって

います。グリバーさがえが、市民のみならず他市町村からも人が集まる場所になる可能性があるのではないかなど。また、トライアスロンの大会を開催して「観るスポーツ」の一環としたいと資料にありました。グリバーさがえでスイムを行うということだと思いますが、ランとバイクもそこで行うのでしょうか。トライアスロン自体が長い競技であり、例えばランとバイクが他の会場だったりすると、なかなか観客は集まらないのではないかと思いますので、そんな中、キャンプをしながら待つことができるということで、集客につながると思います。また、10月のスポーツ推進月間においても、このような人が集まり行ってみたくなる場所があることによって、グリバーさがえをメイン会場の一つとして位置づけ、周知を高める動機づけになるのではないかと考えます。私の理解不足等あったかもしれませんが、あくまで一つのアイデアとして、以上述べさせていただきました。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。それでは鈴木多鶴子委員お願いします。

○鈴木多鶴子委員：

心身の健康を保ち健康寿命を延ばすためには、ウォーキングも含めたある程度のスポーツの習慣が必要だと私も思います。体を動かさなければ、機能も退化してしまいますし、血液の循環も悪くなってしまいます。また、地域でのスポーツ活動を通じての人と人とのつながりは、活力や生きがいにもなっています。多くの方がスポーツの必要性を感じながらも、なかなかできていない現状のようです。アンケートの結果にも表れています。私自身も、昨年まで健康の必要性を感じながらもなかなか時間を取ることができずにいました。ただ、あるきっかけで週に2回程度、スポーツを始めるようになりました。その結果、体は軽くなり動くのも楽になりました。もう少しウォーキング等もしてみようかなと思うようになりました。健康診断の数値も良くなりましたし、これからは、健康寿命を延ばすためにもスポーツ実施率を上げていかなければならないと思っていますところでは。

社会の現状を見ると、スポーツをする人とならない人の二極化になっている気がします。スポーツが好きか嫌いかもあると思いますが、小さい頃からスポーツに親しんできたかどうか、スポーツの動機づけもきっかけの有無に影響を受けているのではないかと。最近では、中学校の部活動が任意加入にもなってきましたので、ますますスポーツをする子とならない子の二極化になっていくのかもしれませんが。スポーツの地域移行により、生涯にわたってのスポーツの継続にはなると思いますので、多くの子ども達がスポーツを楽しんでいけるように、小さい頃から、体を使った遊びを沢山することが大事になってくると思います。体を動かす喜びや体の様々な分野を使い活かすことで、体の機能も発達していきます。使わなければ体の分野も目覚めません。幼児は保育所や幼稚園、習い事、そして家族で沢山体を動かすことができるように、小学校では、体育の授業や遊び時間、スポーツ少年団、習い事や家族で、中学校・高校・大学では、体育の授業や部活動、地域スポーツや習い事で、社会人では、地域スポーツやジム、ヨガ、マラソン、スキー、ゴルフ、ウォーキング等様々なところで、高齢者になると健康福祉の面からも健康体操やウォーキング等でしょうか。飼い犬の散歩をしている方も多いように思われます。昨日のテレビのニュースで、山形市の小学校の体育の授業において自分達で考えたテレビ番組、体育館全体をSASUK

Eに見立てた障害物競争を取り上げていました。テレビ番組SASUKEのファイナルにも残り一躍有名となった山形県庁の星の多田さんも来校し、子ども達が考えた障害物にチャレンジしてくれていました。その時の子ども達の生き生きとした眼差しがとても素敵でした。跳び箱やマット等を不得意とする子どもが多い中、このようなどつつきやすく楽しい授業は、自分もやってみようというきっかけづくりに良いと思いました。

寒河江市の幼児教育や学校教育の中でも様々な工夫や取り組みがなされているとは思いますが、スポーツ振興のためにもさらに研究と取り組みを続けていって欲しいと思っています。最近の新聞には、プロのスポーツ選手を呼んでのスポーツ教室等が連日掲載されています。子ども達にとっては、スポーツに興味を持つきっかけがとても大事だと思います。また、スポーツ少年団や部活動の人口が減る中で、授業が終わってから放課後の時間に一週間に1回でもアフタースクールのようなかたちで、自由な遊びの時間やスポーツの時間が取れないかなど。陵東中学校等では、「木曜塾」といい部活動のない木曜日に自主的に勉強する部屋や時間が設けられています。その時にスポーツをしたい生徒は体育館を使えるようにしたり、スポーツが得意な地域の方達と交流を図ったりすることも、良いのではないかと考えております。

次に、地域のスポーツ交流という点で、地区公民館の体育の事業についてですが、こちらは生涯学習課の担当になりますので課は異なると思うのですが、スポーツに関する話でもありますので、少しお話をさせていただきます。今年度、町内会の隣組長をしているので特に感じたことですが、公民館の体育部の方は本当に一生懸命にやっていただいております。私の町内会の体育部の方もスポーツ祭やソフトボール大会に町内で出場しております。声かけがあるので、常にはお会いしていない若い方達や息子の同級生が参加してくれたり、スポーツへの参加だけでなく交流も生まれてはおりますが、参加者集めに苦労したりコロナ禍の影響で参加チーム自体が減ってきている現状になっています。その時に、何か工夫をすればもう少し盛り上がり期待できるのではないかなど。今、色々なところでマルシェ等が賑わっておりますので、例えば市民体育館で大会をする際にお店を出してもらって、イベントと抱き合わせてお祭りの楽しみとスポーツの楽しみの両方を味わえるようなものにして、盛り上がるようにできないかなどと考えております。そのように思ったきっかけは、数年前に市民体育館でインターハイがあった時に男子バレーボールの試合を観に行ったのですが、会場前で色々なグッズを売るスペースがありました。飲食物があったかは覚えておりませんが、そういったお祭りの中でスポーツも楽しむことができるとなると、集客も見込めると思いますし楽しい交流も広がるのではないかと。

最後に、車社会の寒河江の人達は、都会の電車利用の人達より歩く機会が少ないようです。それで、月に1回とか一週間に1回とかですね、できるだけ車を使わないウォーキングの日等を掲げて、意識づけをするのも良いのかなど。環境のために、自転車推進をするという話も聞きました、例えば、ゼロのつく日に皆さんで車を使わず歩きましょうとか、自分だけでなく何人かで行うことで連帯感が生まれたり、市内でもチェリーランドやふるさと総合公園等ウォーキングに適した場所がありますので、日時を合わせてウォーキングをする仲間がいて交流が生まれたり、ウォーキング人口も増えるのかなと思います。大沼尚史委員のように私も昨日検索してみたのですが、何かこれからスポーツをやりたいという人にとって、寒河江ではどこでどんなスポーツがあるのか全体像がなかなか掴めないように思えます。こういった種目をやるためにはどこでやれるのか、習うところがあるのか等なかなか事情を知っている方でないと情報にたどり着けないよ

うな現状です。そこで、市でやっているスポーツだけでなく体操教室やダンス教室、ヨガ教室等も含めて、何かスポーツができるものを一覧にしてもらえば、スポーツの入り口も広がるように思います。紙でなくても、インターネットで検索して一覧が出てくるようなかたちになれば良いかなと。ぜひお願いしたいです。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。4名の教育委員の皆さんから色々とアイデアをいただきましたが、ぜひ実現していただければと思います。最後に、佐藤教育長の方からまとめていただいてよろしいでしょうか。

○佐藤志津男教育長：

色々な視点から提案いただきまして、ありがとうございます。皆さんからもお話あったように、多くの方がスポーツをしたいと思いつつも、なかなか最初の一步が踏み出せないということが現実なのかなと。その最初の一步を踏み出すには、きっかけが大事ですし、続けるためには仲間づくりというのが大事なのかなと思いました。そういった面でも、双方向の交流が大事でしょうし、きっかけについては先程鈴木多鶴子委員からもありましたように、やりたいけれどもどこでやったら良いかわからないものがすぐわかるようになると、行ってみようかなという気持ちにもなってくるのかなと。また、スポーツ体験に関してですが、私は今年も去年もボルダリング教室の方に行きましたけれども、親子でとても楽しそうにやっていて、「来年からボルダリングをやる」という子ども達も出てくるのかなと感じたところでした。モルックも去年見に行った時に、欠席者の代わりに体験しましたけれども、初めてでもとても楽しめましたし、奥が深い競技だなと思いました。そういった色々な体験をする機会をこれからも続けていただけて拡大していくことが、スポーツに親しむ人達が増えることになっていくのではないかなと思います。先程の市立図書館の話と被るのですが、スポーツも意識改革が大事でして、かつてのスポーツは勝負にこだわったものでしたけれども、それはそれとして楽しむスポーツ、仲間づくりのためのスポーツといった考え方にシフトしていかないと、広がっていかないのだろうと感じています。今進めている部活動改革も、本当に目指すところは生涯スポーツですので、室伏広治スポーツ庁長官等も「中学生くらいの時は色々なスポーツに親しんだ方が良い。その方が将来的にもプラスになる」と言っています。ですので、今教育委員会として取り組んでいるのは、色々なことをやりたい子がやれるような場をより多くつくっていききたいということです。各競技団体や企業にも働きかけながら、取り組んでいるところです。そうしたことも一緒に寒河江市全体のスポーツ人口の増加ということと結びつけることが大事かなと。各競技団体も高齢化が進んでいて、若い人を入れないと何年後には続けられなくなるというような状況もありますので、これをきっかけにして若い人も入れながら中学生と一緒にやっていると、市全体のスポーツ人口の増加にもつながっていくのかなと改めて感じたところでした。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。鈴木淳一委員からもありましたけれども、スポーツとレジャーの境目は難しいですね。勝ち負けの中にもゲーム感覚での楽しさもありますので、こだわってしまう

のも問題かもしれませんが、そういった楽しさも必要かなと思います。私も毎朝35分程同じコースを散歩しておりますが、毎日新しい感覚があります。天候もその日によって違いますし、季節の移ろいを肌で感じながら、散歩しております。健康のためということもありますので、楽しいかと言われると微妙なところではありますが、朝の空気を吸ったり景色を見たり、山の残雪具合等発見はあります。毎年さくらんぼウォークは12km行っておりますが、それ以外にも、チェリークアパークとかふるさと総合公園からグリバーさがえまで国土交通省の方で道路整備も行っておりますので、平塩の方までコースとして回ることができるようなになればなど。先程お話あったように、温泉に入って汗を流すこともできますし。

グリバーさがえも色々なスポーツができるのですが、トライアスロン協会から言われているのは、障がい者のトライアスロンにとって場所が適している。なぜかと言うと、全体を見渡すことができるので、事故が発生したかどうか瞬時にわかると。今、スポーツのための施設が様々ありますけれども、例えば駅前ではミニバスケットボールのコートができますし、ボルダリングの施設もできますし、旧幸生小学校には屋内スケートボード場があります。若い人達が来て楽しめるような、他の市町村にはないような賑わい創造の施設が寒河江にできると。そういった強みを活かして情報発信していけば集客につながると思います。ぜひ来年度色々な面で教育委員の皆さんからもアイデア等いただく機会があると思いますので、ご協力の程よろしく申し上げます。

4 その他

5 閉 会 午後5時15分